

株 主 各 位

第 87 期定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結計算書類の連結注記表	1 頁
計算書類の個別注記表	8 頁

上記の事項につきましては、法令及び当社定款第 16 条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.shinmaywa.co.jp/>) に掲載することにより、株主の皆様へ提供しております。

平成 23 年 6 月 6 日

新明和工業株式会社

連 結 注 記 表

〔連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記〕

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 19 社

主要な連結子会社の名称

株式会社明和工務店、新明和オートエンジニアリング株式会社、イワフジ工業株式会社他

平成 22 年 5 月 17 日付で重慶新明和耐德機械設備有限公司を、平成 22 年 9 月 23 日付で台湾新明和工業股份有限公司をそれぞれ設立したため、当連結会計年度から連結の範囲に含めております。

なお、溶融技術株式会社は平成 22 年 10 月 28 日付で清算が終了したため、当連結会計年度から連結の範囲から除いております。

(2) 非連結子会社の数 1 社 ShinMaywa (Malaysia) Sdn. Bhd.

ShinMaywa (Malaysia) Sdn. Bhd. は、総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等が連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社 1 社 ShinMaywa (Malaysia) Sdn. Bhd.

関連会社 2 社 株式会社カミック、重慶耐德新明和工業有限公司

(2) 持分法非適用の非連結子会社 該当なし

関連会社 1 社 鈴鹿エコセンター株式会社 (PFI)

鈴鹿エコセンター株式会社 (PFI) は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社

ShinMaywa (America), Ltd.	12 月 31 日
ShinMaywa (Asia) Pte. Ltd.	12 月 31 日
新盟和（上海）貿易有限公司	12 月 31 日
ShinMaywa (Bangkok) Co., Ltd.	12 月 31 日
ShinMaywa JEL Aerotech Pte. Ltd.	12 月 31 日
新盟和（上海）精密機械有限公司	12 月 31 日
重慶新明和耐德機械設備有限公司	12 月 31 日
台湾新明和工業股份有限公司	12 月 31 日

決算日の差異が 3 か月を超えていないため、連結子会社の決算日の計算書類に基づき連結しております。ただし、連結決算日の差異により生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの…決算日の市場価格に基づく時価法

なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。

時価のないもの…移動平均法に基づく原価法

② デリバティブ…時価法

③ たな卸資産…主として移動平均法に基づく原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）…定率法

ただし、一部の在外連結子会社については定額法によっております。

なお、当社及び主要な国内連結子会社の耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

② 無形固定資産（リース資産を除く）…定額法

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（おおむね5年）に基づく定額法によっております。

③ リース資産…所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金：債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 役員賞与引当金：役員賞与の支出に備えるため、当連結会計年度における支給見込額を計上しております。

③ 製品保証引当金：一部の連結子会社は、製品のアフターサービス費及び完成工事の補償費用の支出に備えるため、過去の実績額に基づき計上しております。

④ 工事損失引当金：当社及び一部の連結子会社は、受注工事の損失に備えるため、当連結会計年度末における未引渡工事のうち、損失の発生が確実であり、かつ、その金額を合理的に見積ることができる工事について、その損失見込額を計上しております。

⑤ 退職給付引当金：従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定額法により費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理することとしております。

⑥ 役員退職慰労引当金：役員の退職慰労金の支出に充てるため、内規に基づく当連結会計年度末要支出見込額を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については、工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産、負債、収益及び費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。

(6) のれん及び負ののれんの償却に関する事項

のれん及び負ののれんについては、5年間で均等償却しております。

なお、のれん及び負ののれんの金額に重要性が乏しい場合には、発生時に全額償却しております。

(7) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計処理方法の変更)

当連結会計年度から、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当連結会計年度の営業利益は1百万円、経常利益は1百万円、税金等調整前当期純利益は78百万円それぞれ減少しております。

(表示方法の変更)

連結貸借対照表、連結株主資本等変動計算書

「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）に基づき、「会社計算規則の一部を改正する省令」（平成22年法務省令第33号）の適用により、当連結会計年度から「評価・換算差額等」及び「評価・換算差額等合計」は「その他の包括利益累計額」及び「その他の包括利益累計額合計」の科目で表示しております。

連結損益計算書

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づき、「会社法施行規則、会社計算規則等の一部を改正する省令」（平成21年法務省令第7号）の適用により、当連結会計年度から「少数株主損益調整前当期純損失」の科目で表示しております。

〔連結貸借対照表に関する注記〕

1. 担保に供している資産

投資有価証券	19 百万円
長期貸付金	210 百万円

なお、上記の資産は、関連会社の借入金の担保に供しているものであります。

2. 有形固定資産に対する減価償却累計額 54,489 百万円
3. 有形固定資産に対する減損損失累計額
減損損失累計額は、減価償却累計額に含めております。
4. 受取手形裏書譲渡高 2 百万円
5. 土地の再評価

建設業を営む連結子会社について、「土地の再評価に関する法律」(平成 10 年法律第 34 号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額金を純資産の部に計上しております。

- ・再評価の方法…「土地の再評価に関する法律施行令」(平成 10 年政令第 119 号)第 2 条第 3 号に定める固定資産税評価額により算出
- ・再評価を行った年月日…平成 12 年 3 月 31 日
- ・再評価を行った土地の当連結会計年度末における時価と帳簿価額との差額
…時価は帳簿価額より 196 百万円下落しております。

〔連結株主資本等変動計算書に関する注記〕

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

当連結会計年度末における発行済株式の数 普通株式 119,727,565 株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決 議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1 株当たり 配当額(円)	基 準 日	効力発生日
平成 22 年 6 月 28 日 定時株主総会	普通株式	498	5	平成 22 年 3 月 31 日	平成 22 年 6 月 29 日
平成 22 年 10 月 28 日 取締役会	普通株式	498	5	平成 22 年 9 月 30 日	平成 22 年 12 月 1 日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決 議 予 定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1 株当たり 配当額(円)	基 準 日	効力発生日
平成 23 年 6 月 28 日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	498	5	平成 23 年 3 月 31 日	平成 23 年 6 月 29 日

〔金融商品に関する注記〕

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、一時的な余資は安全性の高い短期的な預金等に限定して運用し、また、銀行等金融機関からの借入れにより資金を調達しております。

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。また、外貨建ての営業債権に係る為替の変動リスクは為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券は株式であり、上場株式については毎月時価の把握を行っております。

支払手形及び買掛金は1年以内の支払期日であります。

借入金の用途は運転資金（短期）及び設備投資資金（長期）であります。

利用しているデリバティブ取引は通貨関連の為替予約取引であり、内部管理規程に従い、原則として実需に伴う取引に限定し実施することとしております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額 (*1)	時価 (*1)	差 額
(1) 現金及び預金	17,150	17,150	—
(2) 受取手形及び売掛金	46,370		
貸倒引当金 (*2)	△ 10		
	46,359	46,336	△ 22
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	2,101	2,101	—
(4) 支払手形及び買掛金	(16,795)	(16,795)	—
(5) 短期借入金	(6,000)	(6,000)	—
(6) 長期借入金	(2,012)	(2,012)	—
(7) デリバティブ取引	(23)	(23)	—

(*1) 負債に計上されているものについては、() で表示しております。

(*2) 受取手形及び売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

これらの時価は、一定の期間ごとに区分した債権ごとに債権額を満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

(4) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 短期借入金

短期借入金は、返済までの期間が短期であるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(6) 長期借入金

長期借入金は変動金利であり、短期間で市場金利を反映しており、また、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(7) デリバティブ取引

デリバティブ取引は、ヘッジ会計を適用しておらず、取引先金融機関から提示された価格をもって時価としております。

(注2) 非上場株式（連結貸借対照表計上額 620 百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

〔賃貸等不動産に関する注記〕

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社及び一部の子会社では、賃貸用のマンション等を保有しております。

2. 賃貸等不動産の時価等に関する事項

(単位：百万円)

連結貸借対照表計上額	時 価
1,797	3,780

(注1) 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

(注2) 当連結会計年度末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額によっております。その他の物件については、土地は適切に市場価格を反映していると考えられる指標を用いて調整した金額により、建物等の償却性資産は連結貸借対照表計上額をもって時価としております。

〔1株当たり情報に関する注記〕

1. 1株当たり純資産額

793 円 36 銭

2. 1株当たり当期純損失

17 円 54 銭

〔減損損失に関する注記〕

当社及び連結子会社は、事業資産については管理会計上の区分で、賃貸資産及び遊休資産については個別物件単位でグルーピングしております。

当連結会計年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

用 途	種 類	場 所
賃貸資産	建物及び構築物等	山口県柳井市

上記の賃貸資産は、譲渡の見込みがなくなったことに加えて、地価が下落しており、将来の収益性が著しく低下したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上いたしました。

なお、回収可能価額は不動産鑑定評価額をもとに評価した正味売却価額により算定しております。

減損損失の内訳

建物及び構築物	29 百万円
器具及び備品	0 百万円
計	29 百万円

個 別 注 記 表

〔重要な会計方針に係る事項に関する注記〕

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有 価 証 券

子会社株式及び関連会社株式

…移動平均法に基づく原価法

その他有価証券

時価のあるもの…決算日の市場価格に基づく時価法

なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。

時価のないもの…移動平均法に基づく原価法

(2) デリバティブ……………時価法

(3) たな卸資産……………主として移動平均法に基づく原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）…定率法

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）…定額法

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（おおむね5年）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産……………所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸 倒 引 当 金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額を計上しております。

(3) 工事損失引当金

受注工事の損失に備えるため、当事業年度末における未引渡工事のうち、損失の発生が確実であり、かつ、その金額を合理的に見積ることができる工事について、その損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定額法により費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に充てるため、内規に基づく当事業年度末要支出見込額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については、工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

5. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

（会計処理方法の変更）

当事業年度から、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当事業年度の営業利益は0百万円、経常利益は0百万円それぞれ減少し、税引前当期純損失は71百万円増加しております。

〔貸借対照表に関する注記〕

1. 担保に供している資産

関係会社株式 19百万円

関係会社長期貸付金 210百万円

なお、上記の資産は、関連会社の借入金の担保に供しているものであります。

2. 有形固定資産に対する減価償却累計額 51,286百万円

3. 有形固定資産に対する減損損失累計額

減損損失累計額は、減価償却累計額に含めております。

4. 保証債務

(単位：百万円)

被保証者	保証金額	被保証債務の内容
ShinMaywa (Asia) Pte.Ltd.	187	工事契約に係る契約履行保証金に対する再保証
Thai ShinMaywa Co.,Ltd.	63	未払経費等の支払債務に対する保証
合計	251	—

5. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務（関係会社短期貸付金、関係会社長期貸付金及び関係会社預り金を除く）

短期金銭債権	2,646 百万円
短期金銭債務	735 百万円
長期金銭債務	70 百万円

6. 「関係会社預り金」は、主として関係会社の余剰資金を当社で集中的に取りまとめ、運用しているものであります。

〔損益計算書に関する注記〕

関係会社との取引高

営業取引による取引高

売 上 高	5,734 百万円
仕 入 高	2,826 百万円
営業取引以外の取引高	502 百万円

〔株主資本等変動計算書に関する注記〕

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

普通株式	19,958,438 株
------	--------------

〔税効果会計に関する注記〕

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

退職給付引当金	2,077 百万円
賞与引当金	635 百万円
工事損失引当金	542 百万円
繰越欠損金	1,945 百万円
その他	2,504 百万円

繰延税金資産小計	7,706 百万円
評価性引当額	△ 2,266 百万円
繰延税金資産合計	5,439 百万円

繰延税金負債

有価証券評価差額金	251 百万円
繰延税金負債合計	251 百万円

繰延税金資産の純額	5,188 百万円
-----------	-----------

〔リースにより使用する固定資産に関する注記〕

貸借対照表に計上した固定資産のほか、事務機器、製造設備等の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

〔関連当事者との取引に関する注記〕

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	新明和オート エンジニアリング 株式会社	所有 直接 100.0%	営業所の賃貸 役員の兼任	資金の借入 (注)	1,590	関係会社預り金	1,590
子会社	株式会社 明和工務店	所有 直接 71.4%	工事の委託 役員の兼任	資金の借入 (注)	1,378	関係会社預り金	1,378

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 関係会社の余剰資金を当社で集中的に取りまとめ、運用しているものであります。

〔1株当たり情報に関する注記〕

1. 1株当たり純資産額	702円57銭
2. 1株当たり当期純損失	23円90銭

〔減損損失に関する注記〕

当社は、事業資産については管理会計上の区分で、賃貸資産及び遊休資産については個別物件単位でグルーピングしております。

当事業年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

用途	種類	場所
賃貸資産	建物、構築物等	山口県柳井市

上記の賃貸資産は、譲渡の見込みがなくなったことに加えて、地価が下落しており、将来の収益性が著しく低下したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上いたしました。

なお、回収可能価額は不動産鑑定評価額をもとに評価した正味売却価額により算定しております。

減損損失の内訳

建物	29百万円
構築物	0百万円
工具器具備品	0百万円
計	29百万円

以上